公開報告会・演奏会（大阪市立大学大学院文学研究科プロジェクト）

伝統芸能の近代化とメディア環境

日　時：2018年3月24日（土）13:00～17:00

場　所：大阪市立大学
学術情報総合センター10階大会議室

研究報告　久堀裕朗（日本近世文学）　菅原真弓（日本美術史）
松浦恆雄（中国演劇）　海老根剛（表象文化論）

幕末・明治期の人気作が
ここによみがえる！

復曲演奏
素浄瑠璃

『大江山酒呑童子』保昌屋敷の段

竹本友庄・鶴澤友吉（淡路人形座）

参加無料
定員100名
（先着順）

（定員に達した場合は、大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センターホームページのニュース欄にて告知します。）

●参加ご希望の方は下記の要領でお申し込みください。

申込方法：電子メール・往復葉書によるお申し込み（1通につき1名）を受け付けます。住所・氏名（フリガナ）・電話番号を明記して下記宛にお申し込みください。折り返し「参加証」をお送りします。

申込締切：2018年3月16日（金）（必着）

申 込 先：〒558-8585　大阪市住吉区杉本3-3-138
大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター
「公開報告会・演奏会」係（往復葉書の場合、返信用葉書の宛名も必ずご記入ください。）
joruri@lit.osaka-cu.ac.jp
（メールの場合、必ず本アドレスからの返信を受け取ることができるアドレスよりお申し込みください。）

＊なおご記入いただきました個人情報は他の目的には使用いたしません。

番付・人形かしら（金時）　南あわじ市淡路人形浄瑠璃資料館蔵

主　催：大阪市立大学大学院文学研究科・都市文化研究センター（UCRC）
協　力：公益財団法人淡路人形協会（淡路人形座）

公開報告会・演奏会 「伝統芸能の近代化とメディア環境」

今年度、大阪市立大学大学院文学研究科ではプロジェクト研究の一つとして「伝統芸能の近代化とメディア環境」というテーマに取り組んで参りました。今回の催しでは、このプロジェクト研究の成果を広く一般の方々に公開すべく、研究メンバーが個々の課題とその成果についてわかりやすく報告します。

併せて、淡路人形座から演者を招き、現在は上演が途絶えた浄瑠璃作品『大江山酒呑童子』保昌屋敷の段を素浄瑠璃演奏でお聴きいただきます。本研究の一環として淡路人形座の協力を得て取り組んできた復曲です。

プログラム

日　時：2018年3月24日（土）　13：00～17：00
場　所：大阪市立大学学術情報総合センター10階大会議室

報　告　文楽と淡路人形芝居の近代 ―― 久堀裕朗（文学研究科教授）
演目解説　『大江山酒呑童子（酒呑童子話）』 ―― 久堀裕朗
実　演　素浄瑠璃『大江山酒呑童子』保昌屋敷の段　竹本友庄・鶴澤友吉（淡路人形座）

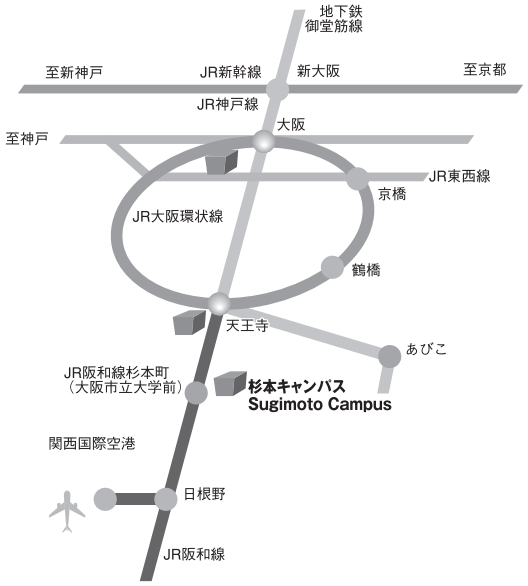
休　憩

報　告　雑誌『歌舞伎新報』に掲載されるビジュアルイメージ ―― 菅原真弓（文学研究科教授）
報　告　新越劇　劇団と観客の交渉史 ―― 松浦恆雄（文学研究科教授）
報　告　文楽とモダニティ：〈無知な観客〉の歴史にむけて ―― 海老根剛（文学研究科准教授）

『大江山酒呑童子』は文化11年（1814）に大坂稲荷境内芝居（いわゆる文楽の芝居）で初演された作品（初演時の外題は『酒呑童子話（しゅでんどうじむかしがたり）』）で、有名な酒呑童子退治の伝説に取材した物語です。明治時代には大阪で実に21回も通し上演された人気作でしたが、昭和以降は上演が途絶えました。淡路の人形座は本作を昭和以降も伝承しましたが、残念ながら近年はその伝承が途絶えていました。今回は淡路の伝承曲に基づき、本作の保昌屋敷の段を復曲演奏いたします。

保昌屋敷の段は、五段構成の三段目切に当たり、源頼光の家来の一人で、和泉式部の夫でもある平井保昌の屋敷を舞台とする悲劇的場面です。頼光四天王の一人坂田金時や酒呑童子の驚くべき出生の秘密が明かされます。

会場アクセス



JR阪和線「杉本町（大阪市立大学前）駅」下車、東へ徒歩約5分
地下鉄御堂筋線「あびこ駅」下車、4号出口より南西へ徒歩約20分

●お問い合わせ　大阪市立大学大学院文学研究科 都市文化研究センター事務局：06-6605-3114
（火・木・金曜日10時～17時　※臨時に閉室することがあります。）
joruri@lit.osaka-cu.ac.jp（本催し申込み・問い合わせ専用アドレス）